

武蔵野日記

発行人 社会福祉法人武蔵野
武蔵野市吉祥寺北町 4-11-16
0422(54)7666

(7月25日~8月24日)

9月1日現在 職員総数 306名



「その人らしさ…」とは？

ワークセンター大地 施設長 草野 泰治

私たち「直接支援業務」を生業とする者は、互いのコミュニケーションの中で具体的な支援について議論する時に、しばしばある種の専門用語のように使用する言葉がいくつかあります。「利用者さんとの関係性において・・・」「ニーズが・・・」「人となり・・・」「～らしい」等、数え出したらキリがないほど、支援者によっては何気なく使用している人もいるかもしれません。改めて、考え捉え直していくこと、振り返ることの必要性を強く感じています。

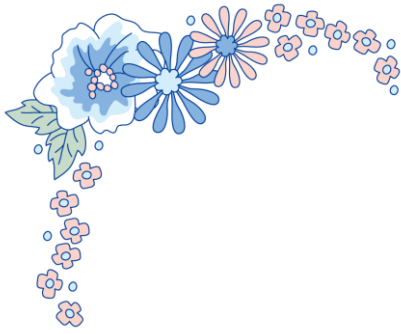
一つ一つの言葉を大切に扱うこととその姿勢を持つことは、代々諸先輩たちから紡いできた支援業務の心得であり、世代が代わっても繋げていくべき支援の柱の一つであると言ってしまう過言ではありません。それらを丁寧に扱っていく過程の中で、少しずつ進化し新たな意味づけも加えながら、多様な価値観にも触れながら変わっていくものなのだ、と。しかし、業務に慣れてくると、日々何気なく使っている言葉の意味や使う際の意図にズレが生じることがあります。問題は、このズレが生じるのではなく、ズレに気がついているか、互いのコミュニケーションにおいて、共通言語としても、共有されているかどうかポイントになります。

ここまでは直接支援業務における「言葉」の扱い方について述べましたが、その言葉の中で頻度の高い「その人らしさ」という表現をここで取り上げてみます。私たちは一般的に「その人らしさ」を見つけていく過程において、次のようなポイントを中心にその人を知るきっかけとしている。本人や家族から生活歴を聞き取り、主義主張、好きなこと嫌いなこと、得意なこと不得意なこと、家族や周囲の人たちとの関係等、そうした情報や背景から、「その人らしさ」を見つけ出そうとし、それを元に具体的な支援の内容を考えることが、一般的な流れになっています。これは、社会福祉基礎構造改革の理念にある「個人が尊厳を持って、その人らしい自立した生活が送れるように…」と謳っている部分と重なります。

「その人らしさを大切にしよう、その人らしさを尊重しなさい。」とよく言われてはいます。しかし、これらが意図するものや意味を理解しているつもりでも、そもそも「その人らしさ」という表現やその概念的な部分が、他者と必ずしも一致している訳ではありません。ある人にとっては、その人の全体ではなく表面的な一部分をみることで判断していたり、勝手に当てはめてみて捉えただけのものかもしれません。あたかも本人を中心に考えているかのような錯覚に陥り、「その人らしさ～」という言葉を使うことに陶醉してしまっているのかもしれません。この場合、人を見ないで表出している部分や形だけを見ているだけに過ぎず、実は何も見ていない、考えていない、感じていません。最終的な判断をする時、このような状況では、これまでの経験や倫理観だけで判断をし、その人像を作ってしまう危険性を孕んでいます。だから結果的にズレが生じてしまうのではないのでしょうか。

その人の多様な面を知りより深く理解する為にも、まずはご本人との関係を深めていくこと、その上でご本人やご家族、支援者や関係者間等とのコミュニケーションをどれだけ重ねてきたか、継続できるかどうかで大きく変わってくると思います。





「私の腰痛日記」

地域生活支援センターびーと 副施設長 羽田野 敦子

「ほらここ、こんなにずれてる。腰椎すべり症だね。治らないんだよ。」

レントゲン画像を指さして、あっけらかんと医師は言った。今年4月10日、腰痛で整形外科に行った時のこと。ずれた骨の画像、「治らない」という言葉、するどい痛み…、逃げられない現実として受け止めるしかなかった。バスで座っていてもアクセルやブレーキが響き泣きそうになる。いろんな人から聞いてはいたが、“何をしても痛い”とはこういうことか、と改めて実感した。

それでも5月に入った頃には、痛み止めを飲みながらリハビリが出来る位に回復した。腰の牽引とマッサージで、行けて週1回。スタッフの1人が声をかけてきた。「時々見かけるが、ロボットのような歩き方が気になる。たまに来て保険で8分のリハビリでは効果は薄い。時間外に自費診療をやっているの、一度来てみませんか？」

6月10日1回目。理学療法士であるその人は、身体のバランスや関節・筋肉の状態などを確認。関節や筋肉でかなり硬いところがあり、そこから痛みが生じているのでは、と説明された。1時間受ける間に、自分は骨と関節と筋肉がつながって出来てる、と実感した。痛みの理由がわかり、思い切ってその日痛み止めを飲むのをやめた。痛さが変わらなかったのが不思議だった。その1週間後コルセットも外してみたが、あまり影響はなかった。

7月1日2回目。関節や筋肉をほぐされながら、ポツリポツリと生活状況を聞かれやりとり。「ふ～ん、そうなんですね」と相槌を打つくらいで、「大変ですね」とは言ってくれない。自分が相手に対し感情を受け止めてほしいと期待していることに気づき、苦笑いしてしまった。福祉関係者はまずそこが基本だから…と思ううち、その人は言った。「腰の骨のずれは、さわるとそれほどでもない。痛みは和らぎますよ。」「え、治る？ 先生は治らないと言ってた…」と言いかけて、痛い・治らないと思いついでいるのは私の方！？もしかして先生が治らないと言ったのは骨のずれ？ 痛みは治る…！？頭が混乱した。

一連の流れをふり返ると、痛みを取りたくて通院【相談】。先生は診断し薬をくれた【診立て・処方】。リハビリを受けた【診立て・助言】。身体をほぐしたり痛みを感じないようにするには自分で取り組むしかない【解決】。最後の【解決】に気付くまでが長かった。

びーとのような相談支援事業所には、「相談すれば解決する」イメージで来る方も多い。【相談】して【見立て】や【助言】を受けても、実際に【解決】するのは【相談】した方自身、という現実がある。…とはいえ、これまでの生活を変えたり新たに始めるのは負担も大きく、解決に踏み出せない方も多い。「課題があっても、前向きに自分で解決しながら生きていく」のが理想である。びーとでは、その理想を目指して、「①課題をわかりやすく整理。②利用しやすいようサービスを調整。③新しく変えることの良さを知ってもらう。」等の支援を相手に合わせて行ない、「何とかしたい」気持ちの持続を目指している。

腰痛の話に戻るが、まだ違和感が残っているものの、電動アシスト自転車で通勤も出来るようになった。私の思い込みをほぐしてくれた自費診療は、7月27日3回目をもって終了した。



8月3日(木)

オンワードにてダルマの展示

山びこのだるまが ONWARD リユースパークにて展示されました。こちらは今年の4月にオープンしたばかりで、環境と循環をテーマとしてオンワードブランドのリユース商品を販売しています。吉祥寺の駅前の通りに面した店舗で、実際に見に行くとガラス越しにたくさんの赤いだるまが並んでいました。山びこはオンワードと提携して、以前から古布を使ったくるみボタンやヘアゴムを制作して販売していましたが、展示は初めての機会でした。8月いっぱい展示でしたが、地域の中で少しずつ山びこのご利用者の関わった作品が街の人たちの目に触れる機会が増えている実感がわきました。(関口 萌)



デイセンター山びこ



8月17日(木)

ものづくり活動(ワークショップ)



週に一度、講師の方を交えて9人のご利用者が絵画や立体等の創作活動に取り組んでいます。この日のテーマは「ランプづくり」。透明のプラカップを活用した初めての試みです。大切にしているのは作者の心の動き。作り方や完成度を意識する事よりも、ご利用者の手が自然に動き出す、気持ちの動きが材料に変化をもたらす流れを大切にしています。いつもと違う豊かな表情で創作に打ち込む姿に出会う時が、この活動の価値を感じる瞬間です。日中の生活が単調になりがちな作業所ですが、ご利用者の感性に様々な角度から光を当てていく事の大切さを私自身が再認識する場となっています。(武田 光正)

武蔵野福祉作業所



8月22日(火)

防犯訓練

やはたハウスでは、ご利用者の安全を守るために警備会社と契約して警備機器を設置しています。今春設置した自動火災報知機も警備機器に接続されており、火災の場合には警備員が駆けつけてご利用者の避難誘導に当たることになっています。

今回は、不審者の侵入に備えて、ご利用者の各部屋にある緊急通報ボタンを押す練習をしました。「怖いことがあったらこのボタンを押してください」と説明、実際に押しもらって警備会社に通報信号が行っていることも確認しました。自分で通報ボタンの手順を書いたメモを作る方もいらっしゃるなど、皆さんに防犯意識を持ってもらえました。

(津田 京子)

やはたハウス



8月22日(火)

協働受注 ～みんなで力を合わせて～

受注作業は状況によって作業が途切れてしまう事もあります。就労支援事業所として、そういった状況を作らないよう、ご利用者に働く機会を提供し続けること。売り上げを伸ばし、高い工賃を支払うこと。これらを目的とし、りぶる、けやき、福作の3施設での協働受注の機会を積極的に増やしています。しかし、ただ大きい案件を3施設で分配しているだけではありません。資材の移動が難しい場合にはご利用者に互いの事業所へ出張してもらう事もあります。りぶるという【個】の力を発揮しつつ、3施設の協働する力も大きくしていきたいと思っております。



(桑島 たけみ)

8月24日(木)

ケアハウスレストラン

ケアハウスレストランは前菜から始まりデザートと飲み物で終わるフルコースのディナーです。今回はメインをオムライスとしらす丼から選んでいただきました。

さくら色のテーブルクロスを敷き、レストラン風のコスチュームをまとった職員がおもてなしの気持ちを込めてきめ細やかな接客を行いました。普段とは違う雰囲気の中で食事を楽しんでいただき、会話もいつも以上に弾んでいました。

外食に行かれる方も少なくなってきているので、今後も続けていきたい行事のひとつです。

(鈴木田 淳)



ワークステージりぶる



桜堤ケアハウス



事務局より 9月の予定

4日(月) 施設長会議
19日(火) 誰でも相談室

29日(金) 経営企画会議

<編集後記>

今年の夏は、毎日雨続きで、夏らしい夏を満喫できず残念に思っている方もいらっしゃるのではないのでしょうか。それでも、小学生のプールに通う姿や、通勤時に通る公園から聞こえるラジオ体操の音楽、せみの鳴き声などに、夏を感じつつ、私は毎日を過ごしました。

9月に入りますが、まだまだ暑い日は続きます。みな様体調に十分お気をつけください。

ジョブアシストいんくる 猪狩

